

講 評

先ほど、審査員5名で審査を行いました。

表彰ということで、審査の結果が発表になりましたが、皆さんの思った結果と一致していたでしょうか。どうでしたか。賞はそれぞれ違いますが、みんな紙一重の差、そんなに大きな違いはなかったと思います。みんな立派でした。

今回の大会、まず、8月29日の締め切りで、県内の中学校に原稿をお願いしました。

126点の応募があり、その中から今日発表してくれた8名の皆さんが選ばれたわけです。

原稿審査では、どんな観点から審査したのかを聴衆の皆さんにもお話したいと思います。

中学生らしさ、鋭い観点、新鮮な主張、そういったものはどうだろう。そして、個人の体験だけに留まることなく、一般性、社会性についてはどうだろう。次に、実現・実践する意欲は感じられるか。さらには、論旨が一貫し、構成がしっかりしているかどうか。こういう視点で審査をしました。

そして、今日は更に論評や表現力も視点に加えて、審査をしました。

どういうことかという、落ちついて話せたか。聴衆の皆さんに深い感動や強い印象を与えることができたかどうか。内容が共感や感銘を与えるものであったかどうか。話し方に説得力があったか。熱意と迫力はあったか・・ということです。今日の8名の皆さんは、みんな得点が高く、甲乙つけがたい非常にすばらしい発表だったと思います。

今日は、もうひとつ、審査員特別賞を差し上げたいと思います。

今日参加してくれた中学生の皆さんの発表を聞く態度、これが大変素晴らしかった。審査員全員一致で、「審査員特別賞をあげよう」ということで決定しました。賞状も記念品もありませんが、審査員から拍手を差し上げたいと思います。おめでとう。

今日の発表を聞いて、皆さんもいろいろなことを考えたと思います。

その気づきをこれからの生活や活動に、活かしていただければと思います。

学び、知り、考えていくことが、力となり明るい未来が拓けていきます。

これからの皆様の活躍に期待します。

いろいろな形で、本日ご協力頂きました皆さん、本当にありがとうございました。

青少年育成青森県民会議
青少年専門指導員 中澤 道男

